



港 工 同 窓 会

ニ ュ ー ス

第 5 号

平成18年 4月20日発行

発行責任者 前田武男

十八年度定期総会開催にあたって

港工同窓会会長

港三期(全電力科卒)前田 武男

平成元年度、港工業高校の同窓会再建総会が大手町のサンケイ・ホールで開催され、その折二代目会長を仰せつかり、はや十八年が経過致しました。

本会の再建に当り、高橋光春先生(高輪七期)、幾本嘉男先生(高輪一期・故人)はじめ多くの母校出身の先生方、ならびに港工十六期卒業生の皆さんをはじめとする大勢の卒業生の方々のご尽力に深く感謝申し上げます。

本会も、お蔭を待ちまして現在は何とか無難に運営しておりますが、再建当初は問題も多く、理事の方々には大変なご苦勞をかけてしまいました。

さて、母校は昭和二十一年(一九四六年)四月、高輪・麻布・渋谷の三つの工業学校を統合して創立されました。そして、残念にも平成十六年(二〇〇四年)三月、第五六回卒業式を以てその輝かしい歴史を閉じました。しかし、学校の歴史というのは、ただ年月の積み重ねをいうものではありません。

歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様が、一つの確固たる教育目標を定め、その時々々に適応した教育方針をたて、共通理解のもと直接生徒の指導に当り、行事を行い、また環境や施設設備の整備に力を尽くし、その中で多数の生徒が育まれることになってこそ歴史は意図的に創り上げられるものと考えます。

そこで学んだ私ども生徒の一人一人が人間形成におおくの影響を受けたことと思います。都心部の、あの狭い校地の古い校舎に学校づくりをして来られた初代早坂朝太郎校長先生はじめ歴代の校長先生並びに教職員の皆様方のご苦心の成果です。

校風は生徒を中心に学校を構成する多くの人々の永い永い努力が伝統となつて出来上がるものです。この中から実にユニークな個性を持った人々が卒業しました。

母校は創立以来、工業教育の充実のため常に全国の工業高校のリーダーとして牽引役を果たしました。また、中堅技術者の育成にも大きな成果を成し遂げました。その結果、全日制・定時制を合わせて、一三、五九九名、高輪・麻布・渋谷の時代から数えると、二〇、八四五名の卒業生を輩出しました。卒業生は、単に全国産業界の機械・自動車・電気・電子の分野のみでなく、広い分野で、

さらに世界各地でも活躍されています。工業高校として、永年にわたつて有為な人材を社会に送り出した功績は、学校が無くなつても永遠に残るものです。港工業高校の卒業生として、大変誇らしく思います。

また今年も総会が近づいて参りました。今回は、懸案の「会則改正」をご提案します。ぜひ総会にご出席下さり、同窓会の発展の為忌憚のないご意見を拝聴させていただきます。懇親会も懐かしの地に準備いたしました。ふるつて参加、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

◆平成18年度定期総会

日 時 平成18年 6月10日(土)13時より

(幹事の方は12時に集合願います)

場 所 総 会：13時より 六郷工科高校にて

懇親会：16時より 芝パークホテルにて

会 費 10,000円 (総会のみの方は無料です)

※同封振込用紙にて賛助金共12,000円以上を振込み願います

※準備の都合上、5月末日までに同封はがき又は振込用紙にて

出欠の回答及び転居・近況等のお便りをお願いします。

全国で初めてのデュアルシステム

東京都立六郷工科高等学校

副校長 諏佐 眞一

本校、六郷工科高校のデュアルシステム科は、平成14年9月の第20期東京都産業教育審議会の答申を受け、製造業後継者を育成することを目的に「東京版デュアルシステム」として全国で初めての職業教育制度として平成16年4月に開校致しました。

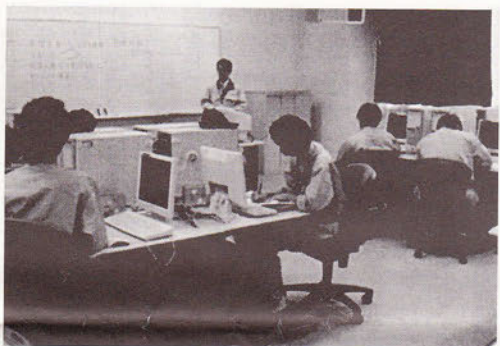
日本で初めての教育制度であることから、情報も少なく、予備知識もほとんど無い状態でのスタートでした。その後、東京都教育委員会から「日本版デュアルシステム」の推進事業に参加することを進められ、平成16年8月に東京都の代表として研究指定校を引き受けることとなり、全国の推進役として研究を進めていきます。

デュアルシステム科の特徴は、高校3年間で1年間を企業での就業体験・企業実習を授業として行い、卒業の単位として認めます。生徒は実践的な技術・技能を企業で学ばせていただき、生徒と企業双方が合意すればその企業に就職も可能とするシステムです。



実習工場

現在、10名の関係職員でデュアルシステム科の運営をしています。職員は、教育制度を理解しないで入学してしまつた生徒の対応、1年次生は適正に合う企業選択、参加前のマナー指導、2年次生は1年次に参加した企業とのマッチングなどに取組んでいます。そのため、教員はデュアル独自の学校説明会・広報活動により生徒募集を行い、より多くの企業選択ができるように協力企業を開拓



情報実習

しました。その結果、平成17年度入学生の入学倍率は約2倍、協力企業は130社以上とすることができました。

「学校での学習だけが教育」といった従来の意識を変えて入学してきた生徒が企業で成果を出し、職員が中学校・企業訪問をした結果です。研究指定校の取組の中で生徒の報告会や企業の報告書、生徒の意識調査から数値の変化によりデュアルシステムの教育的成果を確認することができました。

ものづくりの学校で学び、ものづくりの素晴らしさを支えてきた港工高同窓会の皆様、今後とも六郷工科高校のデュアルシステム科のご支援

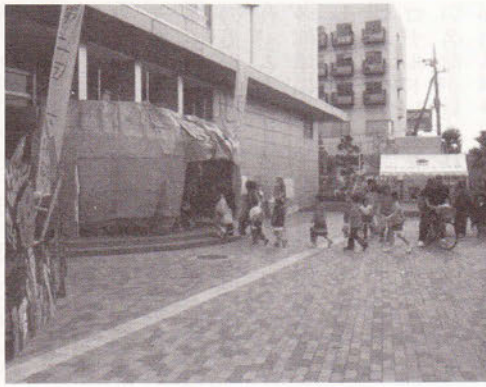
を宜しくお願いします。



企業実習②



企業実習①



第2回六郷祭に参加して
 港(定)12期機械科 野口 英司

「匠」をテーマにした六郷祭は、秋晴れの10月29日(土)・30日(日)に盛大に開催された。六郷工科高校の生徒も2年目の学校生活をむかえて校内行事等にもなれ、昨年より展示内容、各部のイベント数も多くなり、我々も一緒になって楽しませてくれた。校門の入口にテントが設置され、受付の窓口も出来て保護者の方々が手際よく対応していた。

この六郷祭で目を引いたのは、校舎人口より続く「ハロウィン」をテーマに文化祭実行委員会が造った校

内全体の内装であり、夏休み返上で頑張った努力がうかがえた。工科高校の近隣の人達も多く訪れ、ガラス吹きに挑戦していた子供達の微笑ましい姿があった。

クラス・クラブ活動の展示には、各々工夫を凝らした出し物がバラエティであり、その中には生徒制作品の鉄製のフラワースタンドを買い求めた我が同窓生もいたほどだ。いずれにしても男女共学校の良い点なのか生徒自身が楽しんでいる雰囲気、校舎全体に満ちあふれていた。体育館では、軽音楽、和太鼓の競演、チアダンス、全日制対定時制のバスケットボール公開試合等々ハツラツとした若者達を頼もしく感じた。さらに各学科の展示紹介、実習室の開放もこの学校の特色が要点良く紹介されていた。私自身興味があったデザイン科の陶器、ガラス工芸等の作品には生徒の個性を尊重した授業方針で勉学に励んでいる様子が窺えた。

我が港工同窓会ブラスにも50名近い来訪者があり、同級生の消息や動向を尋ねる人もあり、我々と談笑しながら和気あいあいの2日間であった。

今後我が同窓会の作品等を展示するのも一興ではないだろうか・・・楽しんで2日間をふりかえり次回の六郷祭に期待をよせている。

二〇〇四年「六六歳」ルート66をかける
 港(全) 8期機械科 赤川 秀夫

(前号よりのつづき)
 天気は快晴で最初のドライバーは弟が、ハンドルを握りました。今日はリンカーンの生家をホテル見物がかね、夕暮れに訪れる。

リンカーンの生家は静かな所(地名リンカーン)に在り写真撮影のシャッターを夜間警備のポリスにお願いし記念写真を撮る。

車はミズーリ州に入る。走行距離は約400マイル強。(650 km)今宵はセントルイスの地での泊となる。此処のミシシッピ河沿いの高さ630フィートのゲートウェイにエレベーターで昇り大きな孤型の頂点からの展望を楽しんだ。翌日は国道70号線とルート66を交互に走りカンザス州カンザスシティのマリオットホテルにとまる。

アメリカのホテル料金は日本と違い一部屋いくらのシステムなのでダブルベットの部屋を2部屋借りて宿泊する。食事は外出し街の見物が見物が見物。こここの予定は美術館見物と姪の友人の結婚式に出席する事。

式後、カンザスシティを出発する。予定時間を費やした為に今夜は交代で一晩中車を走らす事にする。この為66号は走らず国道35号を走る。夜の12時頃オクラホマ市に入りナショナル・メモリアル・ミュージアム(墓地)に参る。1995年4月19日午前9時1分に白人による爆破テロで亡くなった多くの犠牲者の墓地で、夜は、ライトアップされ、多くの人が墓参りに来ているとの事。説明のポリスマンに有難う(弟と姪が通訳)とお礼の挨拶をのべ車に戻り次の目的地テキサスへ。食事は、夜間営業のハンバーガーショップでとる。

テキサスに入ったところで豪雨に遭う。さすがのトラック野郎達もパーキングに車を停止し休息の最中だ。私達もそのトラックの間に入り雨脚が弱まるまで一息入れる。トラック群が動き始めた気配で私達も少し明るくなった国道40号に戻り、アマリロに向かう。徐々に夜明けのテキサスの風情は正に西部劇の世界を連想させる。

8月9日、ニューメキシコ州に入る。サンタフェ、アルバカーキ、ギ

ヤロップ、ルート66を探しながら映画の主題歌の通り街を抜け走る。今夜の宿はガイドブックお勧めのエルランチョ・ホテルに泊まる。このホテルは1973年12月に建築され、多くのハリウッドスターが、西部劇の撮影に訪れると必ず常宿に使用され、ムービースターの家とも言われ各部屋に泊まった俳優女優の名のプレートがついており、ジョンウエインは100号室に、アランラット、ロナルドレーガン、他多数の懐かしい名前が見られた。明日はアリゾナからネバタ州のラスベガスへ。当日いよいよ夢のラスベガスへ、途中フーバードに降りた時、高温多湿に閉口する。車に戻り一路ベガスへ、坂道を登り切ると突然眼下にラスベガスの街の光が溢れ出した。今宵の宿は走行中に姪の「良いホテルに予約しても良いか?」の問いに一生一度の見得をはり了承する。ホテルミラージュ(蜃気楼)に着きビツクリ、さすがラスベガス、豪華さの連続にゲップがでそう。外は暑いがホテルの中は快適な空調空間である。小休止後ただちに皆で夜のベガス散歩。噴水あり、催し物の案内あり、日本では電話ボックスの例のカードも上質紙に、価格まで明記されている物を姪が種々集めて「はい、お土産」と渡された。あらゆる欲望を満

足させられる条件を全てベガスの街は揃えています。

翌朝ホテルのスイットで少々遊んで日本円で4000円ほどプラス。更に気持ちの良さを延長にプールサイドにゆきサングラス越しに水着の美女を眺めて、極楽極楽。国道15号に入り本日の予定地ロサンゼルスに向かう。

ロサンゼルスに入りルート66沿いの1925年建築された政府登録のザアズテックホテルに投宿、このホテルは歴史的に古いのが売りで、従って空調設備は無しです。今宵は、ここにお世話になる事にして、姪の卒業した大学や、ロス郊外の見物をして、夕食はメキシコ食で有名なレストランで取る。次の日レンタカーを返却の際、車の下廻り外側が汚れていたのので弟に「洗車して返したらどうか」と言うと、チョット聞いて見ると電話した所「今まで洗車し返却してもらった事などない。日本人は、真面目だね」と誉められたそう。

姪の希望で車の車種をフォードから赤いムスタングコンバーチブルに替えてロス見物をする。ゲッティセンターと言う富豪が数年前に創った美術館を見学。弟の友人がデザインした庭園をみたが、この案内人がグループの人達に何処から来たのか

と質問していた。そして、世界中から来ている事も判った。又、東京から来た外家族もおり世の中さまで、とても面白かった。

帰り途、LAのルートに戻り、折り返し地点サンタモニカに向かい走り始める。間もなく往路の終点です。サンタモニカは、3回目の訪問です。最初は仕事で1973年に来ましたが。当時の海岸は桟橋だけで自然の多い静かな海岸でした。ところが今回訪れて大きく変貌していました。例えば観光施設や諸設備等、又多くの人達で大賑わい、公衆トイレに入ると汚れ放題、食事はレストランに入り済ませて桟橋の先端まで歩き本日にルート66のワンウェイ完了!

皆で記念写真の最中に孫が「アッ! タマちゃんだ!」の声、見ると目の前をアザラシが沖にむかって泳いでいるではありませんか。まさに海にルート66が続いている様です。途中ラスベガスに寄った為に変則のルート66になりましたが、観光ルートで大勢の人達と逢う事ができとても楽しい66歳記念のルート66を駆ける事が出来ました。胸のなかでお世話になった皆さん本当に有難う。お元気でいて下さい。

◆会則の改定について

母校の閉校から2年を経過し、同窓会の今後の運営方法を試行してきましたが、六郷工科高校のご配慮を賜り、同窓会の所在地、総会の開催、理事会の運営等の活動が出来ました。

また賛助金による財政基盤や、会報発行、六郷祭参加等の事業活動の方向性も弱ながら見えてきましたので、新しい環境に沿った会則の全面改訂を提案します。



港工同窓会 会則 (抄) [案]

— 新 —

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は港工同窓会と称う。
- 第 2 条 本会は次の目的を持つ。
 - 1. 本会は会員の相互親睦に努める。
 - 2. 本会は母校を愛し母校の歴史・伝統を後世に伝えるよう尽力する。
- 第 3 条 本会は下記に事務所及び連絡所を置く。
 - 1. 本会は事務所を東京都立六郷工科高等学校内に置く。
 - 2. 本会は連絡所を事務所以外の場所に設けることができる。

第 2 章 会 員

- 第 4 条 本会会員を次のように分ける。
 - 1. 正会員は旧都立港工業高等学校、旧高輪工業学校、旧東京市立工業補習夜学校、旧東京市立第一工業補習夜学校、旧東京市立第一実業学校、旧麻布工業学校、旧麻布商工学校、旧麻布商工実務学校を卒業または修業したもので所定の手続きを済めたもの。
 - 2. 特別会員は上記各学校の旧職員とする。
 - 3. 名誉会員は本会に功労あるもので役員会の推薦により総会の承認を得たものとする。

— 旧 —

- 第 1 条 . . . ←
- 第 2 条 . . . ←

- 1. . . . ←
- 2. 本会は愛校精神を発揮し母校の発展に尽力する。
- 第 3 条 本会は事務所を東京都立港工業高等学校内に置く。

- 第 4 条 . . . ←

- 1. 正会員は都立港工業高等学校、旧高輪 . . . ←
- 2. 準会員は港工業高等学校在校生とする。(削除)
- 3. 特別会員は上記各学校の現旧職員とする
- 4. 名誉会員は本会に . . . ←

第 3 章 事 業

- 第 5 条 本会は次の事業を行う。
1. 会員相互の連絡及び共助に関すること。
 2. 雑誌図書の発行及び1項の目的を補填する手段の提供。
 3. その他必要とみとめること。

第 4 章 役 員

第 6 条 本会に次の役員を置く。役員の任期は各1年とし重任は妨げない。但し名誉会長はこの限りでない。

1. 名誉会長1名、特別会員中より役員会推薦により推戴することができる。
2. 会長1名、会員中役員の推薦により総会の承認を得たもの。
3. 副会長2名、理事の互選によるもの。
4. 理事30名、幹事の互選によるもの。
5. 理事は、総務・会計・広報・資料管理を理事の互選により分担する。但し兼務は妨げない。
6. 会計監査2名、理事の互選によるもの。
7. 幹事、各同期同級会員の互選による2名。
8. 顧問若干名、特別会員及び本会役員経験者中役員の推薦したものの。

第 7 条 役員は次の任務を負う。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は之に代わる。
 3. 理事は本会の運営に当たる。
 4. 会計監査は会計監査をなす。
 5. 幹事は理事を補佐し、会務を分掌する。
- 第 8 条 会長は定期または臨時に役員会を開き、会務に関する案件を審議する。

第 5 条 ←

1. ←
2. 雑誌図書の発行。
3. 母校事業への協力。(削除)
4. その他必要と ←

第 6 条 ←

1. 名誉会長1名、母校現校長を推戴する
2. 名誉副会長3名、母校全・定現教頭及び事務長を推戴する (削除)
3. 会長1名 ←
4. 副会長2名 ←
5. 理事25名、幹事の互選によるもの。
6. 会計理事2名、理事の互選によるもの。
7. 会計監査2名 ←
8. 幹事、各同期同級会員の互選による2名及び準会員中より推戴された若干名。
9. 顧問若干名、特別会員中役員の推薦したものの。

第 7 条 ←

1. ←
2. ←
3. ←
4. 会計理事は会計事務を掌る。(削除)
5. 会計監査は ←
6. 幹事は ←

第 8 条 ←

第 5 章 総 会

- 第 9 条 通常総会は毎年1回を開く。但し会長必要と認められた時は臨時総会を開く。
- 第 10 条 総会にて次の事業をなす。
 - 1. 会務報告。
 - 2. 会則の改定、但し出席会員の3分の2以上の同意を必要とする。
 - 3. 会員相互の交歓
 - 4. その他必要な事項。
- 第 9 条 ←
- 第 10 条 ←
- 1. ←
- 2. ←
- 3. ←
- 4. ←

第 6 章 会計及び基本財産

- 第 11 条 本会の経費は会費寄付金雑収入をもって支弁する。
- 第 12 条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第 13 条 本会の収支決算は会計監査の承認を得、毎年通常総会の際之を報告する。
- 第 14 条

- 第 11 条 ←
- 第 12 条 ←
- 第 13 条 ←
- 第 14 条

- 1. 入会金及び会費として5000 円を卒業時に納入する。
卒業時に入会金及び会費を納入しなかつたものは随時納入を認める。
- 2. 卒業後5年を経過した会員は賛助金として、年額2000 円を納入する
- 3. 総会または行事に際し臨時会費を徴収することかできる。
- 一旦受理した会費は如何なる理由があつても返付しない。
- 第 15 条 ←
- 第 16 条 ←
- 第 17 条 ←
- 第 18 条 ←

第 7 章 支 部

- 第 19 条 会員多数在住する地には理事会の承認を得て支部を設立できる。
- 第 20 条 支部に関する規定は会則に抵触せぬ限り支部会員が任意に之を定めても良い。
- 第 19 条 ←
- 第 20 条 ←

第8章 付 則

- 第21条 本会は会務処理のため細則を設けることができる。
- 第22条 細則については理事会の決議により決する。
- 第23条 本則は昭和24年5月22日より効力を発する。
- 第24条 本則は昭和28年3月31日より一部を改正、即日効力を発する。
- 第25条 本則は昭和28年5月20日より一部を改正、即日効力を発する。
- 第26条 本則は平成元年12月16日に本会再建に伴い、一部を改正し、平成2年3月25日臨時総会において決議し、即日効力を発する。
- 第27条 本則は平成2年11月11日一部を改正、即日効力を発する。
- 第28条 本則は平成4年6月7日一部を改正、即日効力を発する。
- 第29条 本則は平成7年6月10日一部を改正、即日効力を発する。
- 第30条 本則は平成14年4月1日一部を改正、即日効力を発する。
- 第31条 平成16年3月6日、母校、東京都立港工業高等学校の廃校に伴い、平成18年6月10日定期総会において本則を大改正し、平成16年4月1日にさかのぼり効力を発する。

第21条 …… ↑
 第22条 …… ↑
 第23条 …… ↑
 第24条 …… ↑
 第25条 …… ↑
 第26条 …… ↑
 第27条 …… ↑
 第28条 …… ↑
 第29条 …… ↑
 第30条 …… ↑

返信ハガキからの近況・お便り (平成17年度分)

旧(教頭) 定 石井 良治

シルクロードと砂漠の旅を続けておられます。チベットからヒマラヤの峠越え、ロプノールから楼蘭遺跡へは圧巻でした。ご盛会を祈ります。

旧(電気) 定 中村 圓平

会長さん始め理事の方々のご努力によって、後継校六郷工科高校との橋わたしもスムーズに進んで大変喜んで降ります。六郷高校長萩原先生のご英断によるものと思っております。今後両高校の同窓会との融和しながら、発展していつてほしいものです。旧生徒にとっても職員にとっても、旧港工高のような親しみのある学校であってほしい。

旧(保体) 定 黒瀬 忠生

せつかくのお誘いながら所用のため出席出来ません。皆様によりしくお伝えください。

旧(自動車) 全 阿部 清吾

同窓会ニュースご送付ありがとうございます。六郷工科高校の立派なことにおどろいています。当日は用事のため出席出来ません。ご盛会をお祈りしております。

旧(電気) 定 井藤 平八郎

いつも同窓会ニュースをありがとうございます。

旧(機械) 全 高橋 徹

新生 都立六郷工科高等学校ならびに同窓会のますますの発展をお祈りいたします。私、五年間の囑託勤務ではありましたが、授業の充実を期して毎日を送っていました。生徒たちの質もよく、意欲にあふれていました。今でもはつきり覚えております。平成5年〜10年勤めました。有難うございました。

旧(事務) 森 美彦

愛宕高等小学校の校舎を利用していた港工業高校で、施設担当の事務職を7年させてもらいました。この間都立大の夜学に通い、教職免許をとり、学童保育、児童館の指導員を10年経験し、今は区議会議員10年目です。なつかしい！港工業。

旧(事務) 直井 功子

いかがお過ごしでしょうか、六郷の地に移っても、熱心に活動されている事、なつかしく又うれしく思っております。

旧(事務) 安田 憲俊

港工業の閉校、六郷工科への引継ぎを終え、平成16年4月に一橋高校に転動しました。一橋高校もまた全日制が平成18年3月に閉課程、平成17年4月に単位制・通信制の開校と校舎改修工事の多忙な日々をすごしています。それにしても閉校というのは寂しいものです。港工の校舎は警視庁庁舎として今すこし寿命が延びたのがわずかな救いかもしれませぬ。皆様方の健勝を祈ります。

高輪(二本) 10期M 野田 直嗣

遠方のため出席出来ません。貴会の益々の発展と総会のご盛会を祈念します。HPを楽しみにしております。

麻布(一本) 2期M 遠藤 明

皆様 港工同窓会ニュースありがとうございます。吾れ吾れの頃は昭和16・5・25東京山手の大空襲で丸焼けとなり、卒業證書もありません。

港(全) 8期E2 織田 一彦

港工、音楽部照井部長の消息をごんじの方いらつしやいませんか？いまでもコーラスとオカリナで楽しんでます。いつもごくろうさまです。今後ともよろしく！

港(全) 12期M 猶井 誠

はじめて同窓会に出席させていただきました。2年前に港工文化祭に行きました。そこで同窓会理事さんたちとお会いしました。

そのブースで高輪第一本科7期電気科3組の中田功氏と出会いました。同氏は03年4月に他界されました。夫人より連絡があり、氏の追悼展(05・4)に行ってきましたが、見事な油絵の作品が並んでいました。以上お知らせいたします。

港(全) 12期E1 船戸 敏彦

お世話になっております。無理と思いますが何年か一度新橋周辺で懇談会でもやっていたらと勝手な事を考えています。

港(全) 17期A 神崎 賢次

幹事さんいつもお世話になりありがとうございます。ご案内をいただく度に高校時代を思い出します。来年は是非参加したいと思います。

港(定) 47期C 池田 秀一

会費の納入場所 コンビニエンスストアで納めることができる用紙にできないでしょうか？

※コンビニでは公共料金等大規模しか扱いません。郵便局だけが小口でも受け付けます。事務局より

海外出張のこと 港定 13期電気通信科 新野 修巳

突然、同窓会理事の西原君から電話があり「ニイノ悪いけれど港工業の会報に載せたいので一筆書いてくれ」と頼まれた。私は昭和32年（1957）年定時制の電気通信科に入學し、36年に卒業して、現在64歳になっている。西原君は電気科であり同学年、私とは全く行き来がなかったにも拘わらず卒業してから馬が合うというか、最近をよく行き来している。「アンタは仕事でよく海外に行っているよな！その辺を面白おかしく書いてくれないか」と言われた。「ヤダヨ」という言葉も無くOKを出され書くことと相成った。

書くとなると簡単明瞭、しかも読む人が面白く感じ、分かりやすく書くのが文筆の達人な人、私と言えはズルズル書いて相手には意味不明が多く、外部に発表した「かきものは全く無い。困ったなと思っただけに遅い。自分史を書くことと既たので人に読ませるのではなく自己満足のために書くこととした。悪しからず！

折角海外編と言うことなので、仕事で出張の合間に見たこと話したこと、感心したこと書き留めてあったものを引き出しから引っぱり出して書き始めた訳である。

前置きが長くなったが海外見聞録はA社（一部上場企業）に居たときが一番多いが、その会社は親会社に吸収されて現在は無くなっている。海外出張の理由は様々、コストダウンの為、紛争鎮圧の為、ビジネス拡大の為、設計サーベイ、生産委託契約の為、工場新設の為「もの」を安く作り、お客様にロープライスで提供し、しかも会社に利益がだせるためならどんな理由にせよ、行かねばならなかった。A社には1987年7月に親会社のS社から出向を命ぜられた。途中転籍になり2001年6月退任までの14年間で海外出張は80回程度になる。

韓国、台湾、香港、中国、フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン、UAE、ウズベキスタン、トルコ、イタリア、UK、ドイツ、フランス、オランダ、ベルギー、スイス、オーストリア、アメリカ、パナマ、ブラジル、コロンビア、オーストラリア。

一回の出張で数ヶ国回るがあるので訪問国の回数はバラツキがある。一番多いのはシンガポール38回、シンガポールでMTGしてインドネシアに行きシンガポールに帰って工場会議、マレーシア工場へ行き中国経由で帰るといような出張が多かった。マレーシアは21回、三番目は中

国16回、それからインドネシア10回、アメリカとUKは8回、の記録がある。日本人の平均から見ると多い方だけれど、社内でもっと多い人はたくさん居る。私自身としては良くも悪くもよく行ったなと思う。

確率的には非常に低いものの、海外での事故は多々発生している。よくも問題なく帰ってきて現在があるものだ。赴任生活があると思っただが、会社にお世話になって14年間に一度も無かった。中には珍道中が多々あった。悲しいこと、仕事以外で楽しかったことなど走馬灯のように頭の中を駆け巡る。

自分史を作ると決めたとき、まず一番がA社時代の海外出張編である。出張であるから仕事であるが、書くにあたって仕事の内容は抑え、その時付随した様々な出来事を中心に書き残しておくことにした。

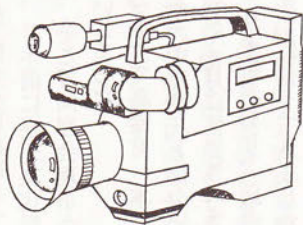
一番印象に強く残ったのは、ブラジルのマナウス（C社）の火事の火消し。次は中国貴陽でありその次はシルクエアーの事故で5名のA社シンガポール社員が亡くなり、その対応のため現地で処理にあたった時である。中国やウズベキスタンでも貴重な体験をしたし、インドでも面白い話がたくさんあった。

S社時代にもアメリカ、韓国、シンガポール、マレーシアと10回程度、

その他60歳を過ぎリタイア後も出張している。1991年から2000年迄で64回の記録がある。1991年以前はパスポート更新の際、新旧交換しなければならなかったのでチェックすることが出来ない。出張にはレポートが付き物で必ず出している。現在のようにパソコンに入力しておけば記録は残るが、何せ手書きであるので回覧して帰ってこないものも有ったと思う。一口で100回の海外出張と言っておこう。

以上が書き出しであり、様々な国のエピソードがある。次なる編につながりが読者が面白いと思ってくれなければこれで終わり。

ご意見を頂きたい。
編集部 matsukaka@minatokoumei
にどうメール。



港工校と愛宕山

港(全)8期機械科 海野 鑑一

愛宕のみどりさわやかに・・・と詩人 大木淳夫が港工高校歌に愛宕山と東京港(輝く港)のイメージを以って若人の未来と夢を育む学舎として詩に託している。8期生2学年のとき生徒総会で議決し初代の校長の早坂先生に校歌制定をお願いをした経緯あったと記憶する。翌昭和30年に制定発表され、3学年の1年間折々に歌われ翌年の卒業時にはすっかり馴染み新校歌によって送られた卒業生ではなかったかと思う。

また、愛宕山は、運動部の基礎体力を作る場でもあり足腰を鍛える絶好の場所であった。男坂を上り、女坂を下る周回コース・通常の階段より1段が3割ほど高い石段が68段、40度勾配はかなりきつく3周回を課せられると掛け声もグーンとトーンダウンする。当時は運動中の吸水は当然のことながら不可、ペナルティでもう1周などは真夏であれば尚更、のどの乾きと合わせて先輩の顔が鬼と化する。

さて、愛宕山のことについては港工50周年記念誌にも種々記述が見られるが、將軍家光の命で馬術の名手・曲垣平九郎が馬を操り、山頂の紅白梅を手折り献上する逸話があ

り、講談の演目でもつとに知られている。

只、当時は丸石を敷いた185段の石段であったというから今日の3倍の段数であり、かなりゆるやかな勾配であったと思われる。

山頂も今日よりはもつと広く、ずらりと腰掛け茶屋も並び、市中や海岸も一望でき江戸一番の展望台として賑わい、花見や日の出を見物する名所であった。今日はビルが林立し全く趣を異にしている。また、桜田門外に井伊大老を襲った水戸浪士18名がここで集合し時を待った歴史もある。更にNHKが日本全国に電波を流したのもこの山頂からであり現在、博物館として在りし日々を展覧している。

我等8期生の卒業記念の写真は、愛宕山石段に整列し、アルバムが作られてもいる。

港区に生まれ育った小生には、隣接する芝公園は14万6千余坪の広大な敷地に増上寺を始め諸仏閣、五重の塔、滝、小川、池と全山が幼少期の格好の遊び場で、丸1日を過ごすこともあった。戦中戦後そして今日その変貌は凄ましい。

港工高に係わる皆さんにも母校周辺には思い出が多い事と思います。大都會の近代化の中で年配者ほど隔世の感が大きいと思います。

恩師 訃報

(平成十二年〜十七年)

- 六平 巧宣 (英語・全)
- 伊藤 茂 (機械・全)
- 松島 達 (旧職員)
- 高野 雪夫 (旧職員)
- 鈴木 博 (機械・全)
- 橋 芳雄 (進路・全)
- 古谷 典次郎 (第六代校長)
- 広木 義麿 (教頭・全)
- 岡部 精秀 (体育・全)
- 福島 隆 (理科・全定)
- 寺沢 幹男 (機械・全)
- 延時 弘 (教頭・全)
- 花田 千秋 (旧職員)
- 大西 政男 (〃)
- 星野 庸信 (第十一代校長)
- 幾本 嘉男 (電気・定)
- 八卷 清 (電子・定)
- 伴 義夫 (第五代校長)
- 上野 全平 (旧職員)
- 加藤 三郎 (電通・全)
- 荒木 英介 (理科・定)
- 会津 一 (体育・定)
- 小林 績 (数学・定)
- 澤田 芳郎 (事務)
- 佐藤 悟郎 (事務長・全)
- 小田桐キヨ (用務・全)
- 徳永 善藏 (旧職員)

◎ホームページのリニューアルについて

会員の皆さま大変長らくお待たせいたしました。

この度、9月下旬に開設いたしましたホームページを、閲覧された方々から多数のご意見を賜りました。まことにありがとうございますございました。

ソフト上の問題もあり、新たに港工同窓会ホームページを、開設しなおすことになりました。契約プロバイダー (NTTコミユニケーション) に付属する、OCNホスティングサービスのソフトを利用して無料版から有料版に変更して、作成致しました。有料版では利用可能ページが7ページから無制限なるなど余裕のある状態になりました。

会員限定のパスワードについては設定いたしません。

また、運営に関しましては理事の方々5人体制で行う為、随時ホームページの更新が出来ることと考えます。掲載希望フォト及び現行等お待ちしております。

今後ホームページを閲覧されるときは、左記のURLでお願いいたします。 <http://minatokounet>

◆事務局からのお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願い

平成17年度の総会案内及び会報の発送は、賛助金納入実績者及び特別会員に限定し(約1,700部)予算縮小均衡させました。賛助金は536名の方に送金戴き、前年比95%でした。

限定発送は転居先不明戻り等により縮小削減の方向であり、平成18年度は全員(約5,800部)に発送して活動をPRし、会報の充実・ホームページの活用等さらなる拡充と賛助金増を期します。

郵政民営化により振込手数料(同窓会で負担)が高くなります。

窓口振込 70円 ↓ 100円

ATM機 60円 ↓ 60円

※郵便局のATMを使えば、

①土曜・日曜も振込出来ます。

②同封の振込用紙をそのまま機械に挿入し、金額のみ押せばOKです。

③窓口より待ち時間が早いです。

◎総会会費の事前振込みをお願いします。

受付での現金授受混乱回避等ご理解ご協力をお願いします。

賛助金振込み用紙を使用し、金額欄の2,000円を12,000円にすればOKです。(賛助金+臨時会費)

◎卒業生への諸証明発行について

都立港工業高等学校の閉校に伴い卒業生への諸証明の発行事務は都立六郷工科高等学校において受け付けています。

〒144-8506

大田区東六郷2-18-2

京浜急行「雑色」下車

国道沿い徒歩3分

Tel 03-3737-6565

ご不明の点につきましては、

東京都教育庁高等学校課

Tel 03-5321-1111

へお問い合わせ下さい。

◎会員数の把握状況

H18.3月 現在

区 分		在籍数	確認数(亡)
正 会 員	高輪本	771	97 (69)
	高輪本	768	52 (72)
	麻布本	485	176 (104)
	港・定全	3,866	727 (54)
	計	9,773	4,329 (170)
特別会員	旧校長	15	7 (8)
	旧職員	626	343 (106)
	計	641	350 (114)

☆平成17年度の収支状況

前期繰越額	2,966,132.-
収入の部	1,400,259.-
臨時会費	264,000.-
賛助金 536名	1,072,000.-
その他	64,259.-
支出の部	1,290,390.-
総会費 61名	284,653.-
通信費	326,830.-
広報費	420,875.-
その他	258,032.-
時期繰越額	3,076,001.-

☆同窓会会務の連絡先について☆

住所変更の連絡、名簿内容の質問、同窓会ニュースへの寄稿、クラス会近況等々は全て下記へお願いします。

記

〒278-0036 千葉県野田市中野台鹿島町23-7
(株)クリーンジャパン内
港工同窓会 松岡 信之
(会計理事 港16期 S39.A卒)

TEL 04-7125-6808 FAX 04-7125-6851
E-mail : matsuoaka@minatokou.net

編集後記

母校閉校から2年目が経過しました。伝統と歴史の街の港工の同窓会組織も京浜地区の地に新設された六郷校科高校内の施設をお借りしながら、毎月開催の定例理事会と同窓会としての六郷際への参加を実現し、会運営の活動を推進して来ましたが、その活動の推進に力を入れています。そして同窓会の機関紙でもあります港工ニュース第5号も六郷校科高等学校の諏佐副校長はじめ会役員・同窓生方々多数のご協力とご支援のお陰をもちまして発行できました事心より厚く御礼申し上げます。

今回は、会則改定に紙面を割いたので、皆様のお便りを全部掲載出来ませんでした。次号ではより多くの便りを掲載するつもりです。

創立20周年誌(昭和41年)、50周年誌(平成8年)の寄稿文を順次掲載したいと考えています。

限られた紙面での編集に率直なご意見やご感想を今後とも事務局あてに宜しく願います。

編集子一同

港(全) 6期電力科 龍 健治
港(定) 14期機械科 安江弘吉
港(全) 22期電気科 町山 茂